

第3回 大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会 会議録

開催日時 平成31年2月8日(金) 午後6時00分
開催場所 大町市役所 西会議室
出席委員 山崎晃 縣邦彦 続麻純生 山崎雅之 百瀬泰慶 柳澤英幸
小林平八 海川明文 堀祐介 北澤豊繁 北沢伊紘男
中村勝彦 宮沢雄一 荒井英治郎 高橋克好 吉澤義雄
金原徹 17名
説明者等 荒井教育長 竹内教育次長 倉科学校教育係長
中村学校教育指導主事 塩原学校教育指導主事

竹内次長 1 開会
荒井教育長 2 教育長あいさつ

本日の会議では、過日実施した、保護者アンケート調査の結果を報告する。また、今後、このあり方検討委員会の予定について提案するので協議をお願いしたい。

アンケートには、学校施設、設備についての設問があったが、多くの保護者からエアコンの設置を要望する意見が多数出されている。エアコンの整備については、先般、工事請負契約が締結されたところである。普通教室を優先して工事を行い、早期に設置が完了するよう努めて参りたい。

さて、当市の児童生徒数は、1年間に80名程度ずつ減少している状況にある。こうした状況や市がこれまで取り組んできた少子化への対応について、広報の紙面を通じ、広く市民に周知を図り、その上で、市民を対象とした調査を実施して参りたいと考えている。

また、望ましい教育環境について機動的に検討を進めるため、この委員会に部会を設け、踏み込んだ議論を進めて行きたいと考えている。なお、来年度後半には、当委員会としての答申をいただきたいと考えるのでよろしくをお願いしたい。

竹内次長 協議事項に入る。ここからの進行は、この検討委員会設置規則に基づき、柳澤委員長からお願いしたい。

3 協議

柳澤委員長 協議事項に入る。昨年11月以降、各学校をつうじて行われた保護者アンケートの結果について扱う。

事務局から説明をお願いしたい。

竹内次長 (資料に基づき説明)

柳澤委員長 説明が終わった。委員各位には、事務局から事前に結果が送付されており目を通していただいたと存じるが、ご意見等をお出しいただきたい。

荒井教育長

説明を補足する。現在、子どもが在籍する学級、学年の規模に係る回答について、一部に違和感を覚える回答がある。八坂、美麻の学校の保護者の回答の中に、さらに少人数、小規模を望む回答があることであるが、これは、国県の学級規模、学校規模の基準に対してのどう思うかを回答したためではないかと考えている。

しかし、基本的にアンケートは、現在の学校学級規模を基準に回答しているため、単級の学校、複数学級が存在する学校と規模が異なる状況下で、適当かどうか問うているので、学校ごと回答の傾向が異なることに留意いただきたい。

さらに、単級であっても35人に近い学級と、基準の35人を少し上回ったことで2学級に分かれている学級があるため学級構成により回答は異なると考えられる。以前配布した、学年ごとの児童生徒数、学級数に係る資料を併せて見ていく必要がある。

柳澤委員長

各校の学校運営協議会等の代表の方から、ご意見をお出しいただきたい。

A 委員

東小学校は、3学年を除きすべて単級となっている。このことから1学年あたりの学級数は、現在より多い方が適当との回答が多い状況である。29年度から始まったコミュニティ・スクールの取組みについては、徐々に理解が進みつつあり、学校に関わる地域の方々が徐々に増えている状況にある。子どもの数が少なくなる中、大人が積極的に関わり社会性を育てていきたい。

通学については、南部の方面の子は、安全なバス通学となっている。

柳澤委員長

西小学校についてである。通学時間は、比較的短く済んでいる状況と思われる。なお、あいさつ運動などで、校門前に立って様子を見ると、車で送迎している家庭がずいぶん多いことが気になる。学級の人数、学級数については特徴的な部分はなく、全市的な傾向とほぼ同様な結果となっている。

B 委員

南小学校では、各学年2学級あるが、人口推計から、この状況はしばらく維持できると思われる。学校の規模は、クラス替えが可能で児童会活動などの活動に選択幅がある現況が望ましいと考える。

コミュニティ・スクールの活動では、現在、地域学習の支援に力を入れているところである。子どもたちには、大人との触れ合いをとおり、コミュニケーション能力を高めていって欲しいと思う。

また、子どもたちにとって、家庭での教育は、大変重要である。家事などを手伝わせたり礼儀を教えたりと様々な面で家庭教育は、子どもたちの基本的な育ちの面で大切なものと考えている。

C 委員

北小学校のアンケート結果は、全市の集計とほぼ同じ傾向である。これは、現在の保護者のそれぞれの思いが反映されていると思われる。

るが、1回の結果を以って結果を導くことをせず、次年度さらに調査を行うなど丁寧な対応をお願いしたい。

視点は異なるが、北小の学校評価アンケートによると、家庭学習の手引きの利用している家庭は、減少している状況にある。家庭における学習の指針となるものであるので大切さを認識し、活用してもらいたいと考える。また、利用方法が分からないなどの場合には、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めることも大切である。

D 委員 仁科台中学校について、アンケートの回収率が低いことが気になる。仁科台中の結果は、市全体と同じ傾向と見ている。

E 委員 八坂の学校のアンケート結果であるが、設問に対する保護者の捉え方は、現在の状況に対するものでなく、国の基準に対してどうかを回答したのと同じと考える。

特徴的な部分は、通学時間について、ある程度長くかかっても構わないとの回答が多い点である。これは、家と学校が近いことはメリットではなく、通学を、体力づくりや地域を知る機会として捉えているからではないかと考える。保護者から学校との距離に対する不満はあまり聞いたことがない。小学校、中学校が別々にあり、それぞれ通う際、遠くなる場合もあれば、近くなる場合もあるのは、当たり前なことと認識されているからと考える。

山村留学生は、小規模校であるからこそ留学を希望するのだが、一方で小規模のため、クラブや部活動などの選択の幅が狭いことが懸念される。他校との合同チームの編成などについて対応を検討されたい。

F 委員 美麻小中学校については、少人数小規模校でありながらも特長を持った魅力的な学校として発展させ、地域とともに存続させていきたい。今後も山村留学生や小規模特認校制度の利用者を受け入れ児童生徒の確保に努めたい。

通学時間については、姉妹都市のメンドシーの60Km 1時間をかけて通学する生徒もいる例もあり、通学時間については特に問わなくて良いのではないかと考える。

コミュニティ・スクールについては、コーディネーターが学校との連絡調整を図り、機能的に活動ができている。

柳澤委員長 他にご意見等ないか。

G 委員 同じ小規模校であっても、アンケート結果が、八坂と美麻では傾向が異なるが、なにか原因はあるのか。

竹内次長 先に教育長から補足があったように、八坂の学校は、既に学級あたりの人数が少なく、単級となっているのに、さらに少人数が望ましいとの回答は、現況に対しての回答ではなく、国の基準に対して少人数が望ましいと回答された方がいるからと推測する。また、ア

- アンケートの母数も少ないことから影響が表れやすいと考えている。
- B 委員 感想である。保護者が望んでいることは、小さな規模、少人数の学びにより、学習面での効果以上に、それぞれの子どもに寄り添った丁寧な指導の下で育みたいと考えているように感じた。
- 柳澤委員長 他に意見等ないか。アンケートでは、学校の施設の面で多くの要望が出されているが予算の関係もあるのでその点についていかがか。
- H 委員 空調設備とトイレ等衛生設備に対し多くの要望が寄せられている。トイレについては、昨今の生活様式の変化から洋式化を望まれていると考えている。年次計画により整備を進めて参りたい。
- エアコンの設置については、冒頭教育長があいさつで触れたとおりである。
- 学校側の考えをお聞きしたいのだが、学校の先生方の立場から、学級の規模は、どのような規模が適当と考えているか教えて欲しい。
- 柳澤委員長 小学校、中学校の立場からの意見を求めたい。
- I 委員 第一中学校では、1学年の学級が25人程度、2学年、3年学年の学級は30人程度となっている。教科によっては、例えば、数学では、20人と10人に、英語では、20人と20人に分けて授業を行っている。生徒の様子や学習に集中した雰囲気であるかどうかなどにより異なるので、一概に、望ましい学級あたりの生徒数を述べることは難しいが、中学校においては、20から25人が学習集団として適当と考える。
- J 委員 中学校と同様、一概に具体的な数字をあげることは困難である。経験上、教職員に大勢の学級と少人数の学級どちらが良いか尋ねると少人数を選択する教員が大多数と思う。それは、教員自身が児童に教えたいことや伝えたいことが少人数の方が届きやすいと考えるためと思う。
- 学級の規模について、南小では、現在20人から25人の現況が適当との回答が多い。私が各教室を回って様子を見ても、この位の人数が、グループ学習をする上でも、児童の間の交流を深める点においても良いと感じている。20人から20人を少し超える程度の人数が望ましいと思われる。
- K 委員 適切な学級の規模については国においても結論が得られていない状況である。明らかになっていることは、単に少人数であれば、学力が向上する訳でないということである。また、学習方法についても、グループや習熟度別学習など、どの教科でどんな教育を行うのかことが良いのかは、結論が出ていない。社会性を育てる点においても同様である。
- 保護者の皆さんは、少人数であれば、丁寧な教育を受けることが

できるとのイメージを持たれると思うが、例えば30人の学級でも複数の先生による指導など、指導方法の工夫で、良い教育の提供が可能な場合もあると思う。アンケートを参考にしながら、今後検討を進められたい。

柳澤委員長

他に意見等ないか。なければ次に進む。大町市の義務教育の状況に係る広報への掲載内容についてを扱う。事務局に説明を求める。

竹内次長

(資料に基づき説明)

荒井教育長

補足する。児童生徒数の推移をお示し、大町市が少子化の進行に対応して、小規模でも多様な考え方に触れ広い社会性を身に着けるため、これまで教育委員会が取り組んできた施策を知っていただくための記事である。その上で市民アンケートを実施して参りたいと考える。

柳澤委員長

質疑はないか。

C委員

市民アンケートの実施方法を説明願う。

竹内次長

抽出によるアンケートを、5月に予定している。抽出数や対象等、詳細は検討中であるが、市民の意見が表されるよう、統計的な精度を十分保った方法で実施したい。

柳澤委員長

質疑はないか。内容であるので次に進む。今後の進め方について事務局から説明を求める。

竹内次長

(資料に基づき説明)

柳澤委員長

質疑はないか。

I委員

今年度中にもう一回検討委員会を開催する計画であるが、具体的にはいつを予定するか。

竹内次長

3月下旬に開催したい。皆さんお集まりなので、ここで日程調整したい、3月20日18時からいかがか。

柳澤委員長

皆さん都合はいかがか。特にご意見がないようなので次回の検討委員会は3月20日18時からとする。

次にその他の事項であるが、ご発言がある方はお願いしたい。いかがか。

荒井教育長

出生数が130人程度となっている現実がある。少子化の進展する中、どのような教育が望ましいのか、新年度は、この検討委員会の中に10名程度の部会を設け、具体的に検討を進めて参りたいと考える。引き続きご協力をお願いしたい。

柳澤委員長

他にご発言はないか。ないようなので進行を事務局にお返しする。

竹内次長

(閉会のことば)

午後7時30分閉会